

第16回 (令和4年度)

大泉町

小中学生

ふくし作文・ポスターコンクール

入賞作品集《最優秀・優秀・優良》

《小学生低学年 ポスターの部》



《小学生高学年 ポスターの部》



《中学生 ポスターの部》



最優秀
「ぼくにも
おてつだい
できるよ」

大泉町立南小学校
かわしま そうた
1年 川島 蒼太 さん



最優秀
「みんなの協力で
過ごしやすい町へ」

大泉町立西小学校
すずき こはな
6年 鈴木 虹花 さん



最優秀
「笑顔をつくる
思いやり」

大泉町立西中学校
すげた ゆな
3年 菅田 結菜 さん

主催：大 泉 町
大泉町教育委員会
大泉町社会福祉協議会

《小学生低学年 ポスターの部》



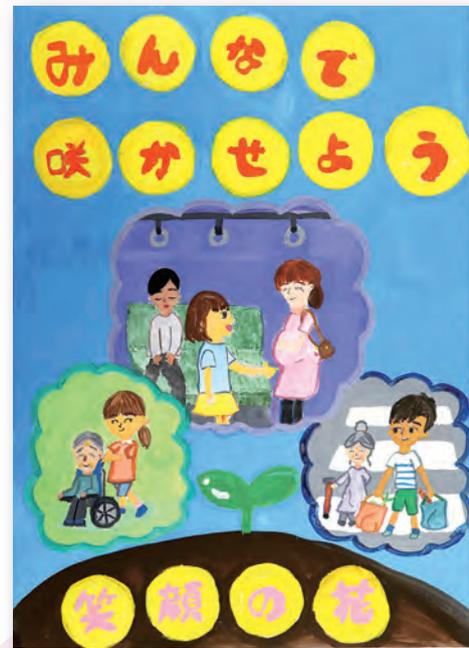
優秀

「ともだちを大切に」

大泉町立西小学校
のむらしゅん
3年 野村 旬 さん



《小学生高学年 ポスターの部》



優秀

「みんなで咲かせよう
笑顔の花」

大泉町立東小学校
かないのあん
6年 金井 乃按 さん



《中学生 ポスターの部》



優秀

「私たちの町を
赤い羽根で」

大泉町立北中学校
こうだなほ
3年 國府田 菜帆 さん



はじめに

ボランティア活動やお年寄りの介護サービスなど社会福祉の推進が大きな課題となる中で、小・中学生が、家庭や学校、社会生活の中で福祉の大切さや将来の夢などについて考えたり共感したりと、心に残る出会いなどを内容とする作文やポスターを作成することにより、児童及び生徒の社会福祉に対する一層の理解と関心を高めるために、大泉町ふくし作文・ポスターコンクールを実施いたしました。

第十六回目の実施に当たり、町内小中学校七校より、小学生の作文十八点・ポスター四十八点、中学生の作文百六十九点・ポスター百十五点、合計で三百五十点のご応募がありました。ご応募いただいた児童・生徒の皆様、応募にご協力いただきました先生方にはこの場をお借りしましてお礼申し上げます。今回の応募作品は審査委員会において厳正に審査し、十六点の入賞作品を決定いたしました。

各学校からご推薦いただいた作品はどれも素晴らしく、選定に大変悩みました。身近な家庭や実体験を題材にした作品が多く、学校教育の中で自然なかたちで福祉教育がなされている様子を実感するとともに、家庭・地域においても小さな頃から福祉教育が浸透してきていることを心強く思う次第です。

感受性が豊かな時期にいろいろなものを見聞きしたり、体験

したり、それを表現したりしていくことは福祉に限らず大切なことと思いますが、次回におきましても本コンクールへの皆さんのご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和四年十一月

大 泉 町

大泉町教育委員会

大泉町社会福祉協議会

令和四年度
大泉町小中学生ふくし作文・ポスターコンクール入賞者

《小学生低学年作文の部》

最優秀	吉田実織	私のひいじいちゃん、ひいばあちゃん	北小学校 3年
優秀	佐藤小夜	わたしのお父さん	西小学校 3年

《小学生高学年作文の部》

最優秀	星 怜 穂	たすけ合い	西小学校 4年
優 秀	渡 來 龍 生	ぼく、私に今できること	北小学校 4年
優 良	小 島 英 誠	ふくしの学び	東小学校 4年

《中学生作文の部》

最優秀	窪 田 志 帆	ありがとうの福祉	南中学校 3年
優 秀	小 沼 旺 汰	挨拶でつながる	北中学校 1年
優 良	高 山 奈 々 花	私ができなかったこと	北中学校 3年

《小学生低学年ポスターの部》

最優秀	川島蒼太	ほくにもおてつだいできるよ	南小学校 1年
優秀	野村 旬	ともだちを大切に	西小学校 3年

《小学生高学年ポスターの部》

最優秀	鈴木虹花	みんなの協力で過ごしやすい町へ	西小学校 6年
優秀	金井乃按	みんなで咲かせよう 笑顔の花	東小学校 6年
優良	宇口結絆	盲導犬との絆	東小学校 5年

《中学生ポスターの部》

最優秀	菅田結菜	笑顔をつくる思いやり	西中学校 3年
優秀	國府田菜帆	私たちの町を赤い羽根で	北中学校 3年
優良	福井萌楓	届け！思いやりの羽	南中学校 3年

最優秀

小学生低学年

作文の部

私のひいじいちゃん、

ひいばあちゃん

北小学校3年

よしだ みおり
吉田実織



私にはひいじいちゃんとひいばあちゃんがあります。ひいじいちゃんは八十九才で、ひいばあちゃんは八十七才です。私はいつも学校が終わると、ひいじいちゃん、ひいばあちゃんの家に戻っています。私が帰るころになると、外に出て手をふってまわってくれています。二人はいつも私が宿題をやっていると、「すごいね、むずかしいのがんばっているね。」

とほめてくれて、私はやる気が出ます。遊び相手にもなってくれます。こまやけん玉のやり方を教えてくれたり、ボール投げもしてくれます。

おやつにおにぎりやポテトチップスを作ってくれます。私がしてあげることがは、立ち上がる時に手をひっぱってあげます。花の水やりやおもいに物を持ってあげます。あとは、学校で習ったえい語を覚えてあげたりピアノを聞かせてあげます。そうすると、いつもにこにこしながら聞いてくれて、私はうれしくなります。二人ができないことは、何でもやってあげたい気持ちです。こんな風にいつもなかよくすごしています。

私は、自分のことだけではなく、まわりの人のことを考えて行動できているのは、ひいじいちゃんとひいばあちゃんが私にやさしくしてくれるからだと思います。やさしい気持ちをもらおうと、私もやさしくしてあげたいと思います。よろこんでくれるとうれしくなります。私にとって

ふくしは、ボール投げみたく思いやりをわたしあつて、みんながしあわせに楽しくすごすことだと思いました。

これからひいじいちゃんとひいばあちゃんは、としをとってできないことがふえてきます。私は大きくなってできることがふえるから、こまっている時や大へんそうな時は、手つだつてあげたいです。たくさんやさしくしてもらった分、もっと二人を大切にしていえ顔にしてあげたいです。



優秀

小学生低学年

作文の部

わたしのお父さん

西小学校3年

さとう さよ
佐藤小夜



わたしのお父さんは、わたしが四才の時にくもまっかしゅつけつでたおれてしまいました。十三時間のしゅじゅつをして、いのちは助かりましたが、こうじのうきのうしょうがいというのうのしょうがいがおつてしまいました。新しいことがおぼえられなかったり、思い出したりすることがながてで、言葉もすぐに出でこなかったりします。びょうきになる前は元気に仕事をして、車のうんでんもしていました。今はも

そうさしたりと、大いそがしです。

今ぼくたちは、助け合っています。まだまだ、できることはあると思います。これから、たくさんお手伝いをし、おじいちゃんとおばあちゃんの、役に立ちたいです。

ぼくは、お父さんとお母さんに聞きました。

「ふくししせつのふくしってどういう意味？」お母さんが言いました。

「ふくしとは、みんながえがおで幸せな生活を送れるように、助け合うということかな。」お父さんが言いました。

「一人一人があたり前の生活をするために、助け合っていくということかな。」

「れおんが、おじいちゃんとおばあちゃんに対して、しぜんに助け合いや、お手伝いができていること、それがまさに、ふくしということじゃないのかな。」

ぼくは、こういう話を家族みんなですることが、とてもだいじだと思

います。

おじいちゃんとおばあちゃんに、元気に長生きしてもらいたいのので、これからも、たくさんお手伝いをし、助け合いをしていきたいと思

みます。みんなの、えがおのために・・・



ぼく、私に今できること

北小学校4年

わたらいりゅうせい
渡來龍生



この夏休み、ぼくは、認知症キッズサポーター養成講座に参加しました。そこで初めて認知症のことを知りました。認知症という言葉自体も

聞いたことがなく、自分の周りにも認知症の人がいないので、自分には関係のないことだと感じていました。しかし、この講座をきっかけに、認知症はだれにでも起こりえるということを知りました。

そもそも認知症とは何でしょう。認知症とは、さまざまな原因でのうの細ぼうが死んでしまったり、働きが悪くなったりするために起こるのうの病気です。新しいことが覚えられなかったり、できていたことができなくなったり、今までのような生活が送れなくなり。現在の日本では、昔とくらべて急速に高齢化が進んでいます。そのため、認知症の人もふえ、八十才をこえると五人に一人が、九十才をこえると五

人と五人に三人が認知症だと言われています。

ぼくのお母さんは、忘れっぽいことです。よく買い物に行つて買い忘れることがあります。物や人の名前もよく出てきません。だから、認知症な

のかなと思いました。しかし、もの忘れと認知症はちがうということを学びました。例えば、みなさんはおとこのばんごはんのメニューを覚えていますか。もの忘れは、すぐに思い出せなくても、ヒントを聞けば思い出せます。反対に、認知症は、どんなにがんばっても思い出すことができません。むしろ食べたという記おくすらなく、食べていないとも言うのです。

この講座に参加してみて、一番大切だと思ったことは、認知症の人の家族はもちろんです。本人がだれよりも苦み、なやみ、悲しんでいるということ。認知症の本人に自覚がない」は大きな間ちがいで、認知症の症じょうに最初に気づくのは本人です。だから、周りの人がその人の心によりそい、やさしく言葉をかけ、こまっていたら手を差し伸べてあげることが大切だと感じました。もし、家族の中で認知症になった人がいて、何度も同じ話ばかりさ

れても、物がなくなってしまうこととを自分のせいにもされても、おこつたり、バカにしたりするようなことはせず、やさしくせつしていいこうと思います。

認知症をはずかしいことだと感じ、だれにも相談できずに苦しんでいる家族がたくさんいます。しかし、だれでも認知症になるかのうせいがあります。だから、まずはだれかに相談をして、地いきや医りょう、社会全体でささえていけるシステムが大切だと思いました。これからは、自分や家族が認知症になつても、安心してくらせるやさしい町を目指したいです。そして、認知症でも、認知症ではなくても、みんなに親切にしていきたいと思っています。



ふくこの学び

東小学校4年

こしまひでまさ
小島英誠



ふくしについて調べたり母に聞いたりして学んだ事があります。「ふくし」とは「ふだんのくらしのしあわせ」の事だと知りました。「みんながしあわせになる事なんだよ。」って母から教わりました。母はかいごふくししでサービスできようせきにん者というやくしよく者だからふくしについて聞いたら色々教えてくれました。やくしよく者だけ「ほうもんかいご」の仕事しているから毎日車であつちの利用

者様、こつちの利用者様って行った来たりして「利用者様が安心して安全で家族の人も『しあわせ]になれて少しでも家族の人が楽しんでいきぬきできる』ために母の仕事があるんだよ。」って教えてくれました。朝8時に仕事が入っている時は7時すぎには家を出て今日は「ちよつこうだから帰れる時間がわかつたら電話するよ」とか「今日はちよつきだから夜6時には帰れると思うよ」って言って仕事に行きます。二十四時間三百六十五日休みが無い仕事だし、今年暑いからクーラーBOXを持って仕事に行つてます。今の仕事している所は「ホワイト」だからって言って楽しそうに仕事している感じがします。前みたいに夜の10時まで仕事する所じゃないからばくも今の職場は良い所なんだなって思います。「今は十五年前から働きたかつた所だつた」ってめんどつから帰つてきて言つてました。母は今少しテレビでも話だいになっ

ている「ヤングケアラー」でしたねつてめんせつで言われて「ヤングケアラー」の事を知つたら嬉しいです。今でも前の仕事のケアマネさん、ドクター、かんごしさんとも仲良くして知らない病気の事は調べたりして仕事しています。母は二カ月前に転しよくしたばかりだけど「デスクが用意されていた。」って言つていて前よりも毎日がんばつてると思つてましたが、母は本当に「ふだんの「く」らしの「し」あわせ、みんなが「幸せ」になる事を第一に考えて仕事しているんだと思つてました。今年も手紙を利用者様からばくあてに三通もらいました。母は仕事でちよつりをたのまれて作つていて「指を切つても自分で血をとめてちよつりしていたんだよ。」って書かれてました。「おじいちゃんがあるの油みそをたのんだら、なすはかわがほしいからかくしほうちよつたべやすくやわらかいおかずを作つてくれたんだよ。」っておいしかつ

たし、ここまでしてくれる人はいなかったからうれしくていつも話の中にでるばかりに手紙を書いてくれました。指切っちゃったって言ってたけどおじいちゃんは入れ歯でもちゃんと食べられたって書いてありました。他の利用者様からは「君のママはすごいんだよ。」「あせをだらだらながしながらうごけないおばあちゃんを毎週二回もおふろに入れてくれるんだよ、おばあちゃんはうれしくて。」いつもお話にでてくるばかりに手紙を書いてくれました。ぼくは出来ない事のお手伝いをしたり、かなしい時は話を聞いてくれるから「気持ちがか軽くなった」利用者さんだけではなく、家族の人の話を聞いたり、はげましてくれたり、がんばらなくても良いよ。何かあったら話聞いてくれるし、いっしょに考えてくれたりしてくれるから「英君のママはすばらしいかいごふくししさんなんだよ。」って手紙がきてました。耳がきこえない人には手話で会話して通

やくもしています。ぼくは、母に手話を少し教わりました。「おはよう」「おやすみ」「だいじょうぶ」「元気」の四つ。「世界中のこどもたちが」の歌も手話で教わりました。むずかしかったです。ふくしって色々あるけれどまだまだ有るよって聞いて「ぼくの幸せと利用者様の幸せのために仕事している母」「ふだんのくらしのしあわせ」のおてつだいでいるって言っているけどふくしの仕事している人達は本当にすごいです。一番安いきゅうりようだからもう少しおきゅうりようのねあげしてあげてほしいとも思います。



最優秀
中学生
作文の部

ありがとうの福祉

南中学校3年 窪田志帆



「福祉」と「感謝」。この二つの言葉を書きで引くと異なった説明がされている。しかし、私は同じ言葉で説明してもいいと思う。それは「しあわせ」だ。「福祉」には「しあわせ」という意味がある。そして「感謝」には「しあわせにし、しあわせになる」という意味が込められていると私は思う。

私の家の近所にはいつもつえをつきながらあるいておばあちゃんがいる。そのおばあちゃんは大体私

が登下校中外にいる。私が初めて会話をするまでは小さな声で挨拶をするくらいだった。私が中学生になり部活動で帰りが遅くなった日。おばあちゃんが「あまり暗くなると危ないんだよ。はやく帰りなあ。」と言ってくれた。それに私は部活をしていて遅くなった事と家は近くだから大丈夫だということを伝えると「そうかい。頑張るねえありがとう。」と言ってくれた。

これが初めての会話だった。私は最後におばあちゃんが言うてくれた「ありがとう。」はなぜ言っていたのか分からなかったがまるで初めての会話ではないような嬉しくしあわせな気持ちになった。この会話をきっかけにおばあちゃんとは挨拶はもちろん、会話もはずむようになった。しかし、どれだけ会話を重ねても不思議に思うことが一つだけあった。それはおばあちゃんが必ず会話

が終わったときに語尾につける「ありがとう。」だ。最初は無意識なのかと思ひ触れなかったが気になったので尋ねると、

「私もくぼたちちゃんも幸せになるためだよ。」

と言ってくれた。その時私は意味が分かったようで分からないびみょうな気持ちだった。けれども確かに私は「ありがとう」を言われた後はしあわせな気持ちになっていたが、おぼあちゃんもしあわせになる。これらが分からなかった。そしてその後も私はおぼあちゃんと会話を楽しむ日が続いていた。しかし、ある日おぼあちゃんが倒れて救急車で運ばれたという話を耳にした。聞いた直後は何を言われているか分からずただ不安でいた。少し落ちついてからは新型コロナウイルスの影響で病院にお見舞いに行けないことから私は無事を祈ることしかできなかった。そして、幸いおぼあちゃんは無事日常生活に戻ることが出来た。数日後、私

は下校中に会い、

「大丈夫なんですか。戻ってきてくれてありがとうございます。」

と声をかけた。そして、

「大丈夫だよ。ありがとうね。しあわせだねえ。」

とおぼあちゃんは返した。その時私は以前おぼあちゃんが言った「私もくぼたちちゃんもしあわせになるためだよ。」という言葉の意味が分かった気がした。「ありがとう」が言えることも「ありがとう」を言うことも「ありがとうしあわせなのだ。」「福祉」というものは人助けなどに限らずこういう事も指すと私は思う。

「福祉」と「感謝」。言葉は違っても「しあわせ」という言葉でつながっているとは私は考える。「ありがとう」というたった一言でしあわせにすることもなれることも福祉ではないだろうか。社会で情報として出されている福祉の活動に対する内容は私たちにはまだ大人のような行動力はないが私達の世代だからこそでき

る事をするのも福祉であると思う。私とおぼあちゃんのように「福祉」のもっている「しあわせ」の意味と「感謝」のもっている「しあわせの力」を合わせるなどの簡単な事なら私達も福祉に関わり貢献することができる。もちろんお年寄りの方に限らず私達に関わってくるすべての人のできる「福祉」があるはずだ。少しずつでも身近なことから「福祉」を始めてみてはどうだろうか。



挨拶でつながる

北中学校1年 小沼旺汰 こぬまおうた



「もし障害者の方が困っていたら、声をかけて助けてほしい。」

僕はずっとそう思っていました。けれど、目の前で障害者の方が困っていた時に、本当に声をかけることができるのだろうかとも思っていました。

『お手伝いしましょうか。うれしかったです、そのひとこと』という本を読んだ、障害者の方の気持ちを少しだけ知ることができました。その本には、目や耳が不自由な人の思いや介助の

仕方が書いてありました。僕は、介助の仕方について考えたことがなかったのですが、介助の方法を詳しく知るきっかけになりました。また、「助けてあげたい」と思うだけなら簡単だけど、実際に行動することはとても大変なことだと改めて感じました。

実際に行動できるようにするためには、障害者の方の立場になって考えることが大切だと思います。僕は、骨折して松葉づえを使ったことがあります。その時いつもは十秒くらいで登れる階段も、三十秒以上かかりました。僕にとっては、自由に走ったり跳んだりすることが「普通の生活」だと思っていました。しかし、義足を付けている方や車いすを使っている方にとつての「普通の生活」は、また違うものなのだと気付かされました。

障害者の方の日々の生活の助けになっっているのが、バリアフリーの設備だと思っています。駅のトイレにアンズが流れていたり、ホームには

落下防止のドアがあったりして、障害者の方を助けています。さらに、今はVRで車いすの方でもスキーの体験ができるなど、障害者の方も健常者と同じような体験ができるようになってきています。けれど、技術だけで障害者の方の生活をサポートすればいいということではありません。

例えば、道案内をしてもらう時には、ロボットよりも人間の案内の方が温かみがあって安心すると思います。障害者と健常者が直接ふれ合う機会も大切にしていかななくてはならないと思います。

今、新型コロナウイルスの感染が広がっていて、人と関わる機会が減っています。東京などの人が多い都会では、道で挨拶をするという習慣もあまりなく、特に人との関わりが少ないと思います。そのため、特に人が多いところでは、障害者の方が困っていることに気づきにくく、話しかけることも難しいと思います。

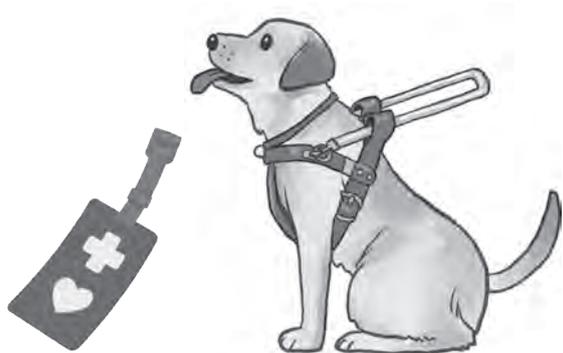
また、人が多いと「誰かが助けるだろう」と考え、皆が通り過ぎてしまうこともあると思います。

以前、僕は電車に乗ったときに「ヘルプマーク」というものを付けている人を見ました。けれど、その時は「ヘルプマーク」というものを知らず、席を譲ることができませんでした。その時に思ったことは「障害者の方への正しい知識がないと、いざというときに助けることができない」ということでした。この経験は、障害者の方について調べようと思っきっかけにもなりました。ヘルプマークや補助犬など、様々なことに興味をもってこれからも調べていきたいです。

また、障害者の方が外国の方だったり、車いすに乗っている方だったりすると、助け方や話しかけ方などがより難しいと思います。いざというときに助けられるように、「何か手伝えることはありませんか」と、英語で話せるようにしたり、車いすの使

い方を調べたりして、助ける準備をしておきたいと思います。

初めは、障害者の方に声をかけて助けることは難しいかもしれませんが、そこで、まずは日頃から挨拶をすることから始めると、人と人とのつながりが生まれ、障害者の方を助ける第一歩になると思います。障害者の方だけでなく、地域の人にも積極的に挨拶をして、互いに声をかけやすい地域をつくっていく事が、困っている人を助けることにつながると思います。





私ができなかったこと

北中学校3年 高山奈々花



「大丈夫ですか。手伝いますよ。」

私は友達その言葉でハッとしました。

中学校最後の修学旅行で、私は京都と奈良に行きました。私の住んでいる群馬とはまったく違う街並みに、私はとてもワクワクしていました。

班のみんなで京都をまわっている途中、私たちはバスに乗ることになりました。来たバスは多くの人が乗っていましたが、時間がないので、仕方なくそのバスに乗ることになり

ました。前の人が乗るまで、しゃべっていた私の耳には、こんな言葉が聞こえました。

「大丈夫ですか。手伝いますよ。」

私は友達その言葉でハッとしました。その声ができるように目を向けると、私の班の友達が、お年寄りの男性を手伝っていました。そのおじいさんは、つえを持っていて、バスに乗るのも大変そうでした。バスに乗ることができたおじいさんは、

「ありがとうね。助かったよ。」

と、友達に感謝していました。私は、その友達がしているのを見て、自分が恥ずかしいと思いました。目の前に困っている人がいるのに、どうして私は手伝って助けなかったんだろう、と思いました。

昔から私は、多くの大人に、「困っている人がいたら、助けましょう。」

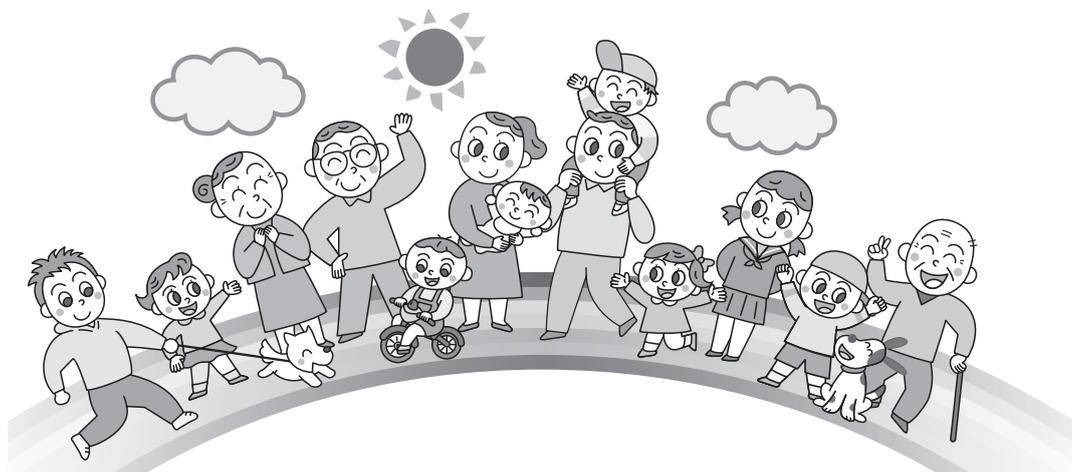
と、言われてきました。私はそれを言われるたび、

「何言ってるの。助けるにきまってる。」

る。」

と思っていました。でも実際、私は助けませんでした。自分は絶対にそのときそうするだろう、と思っていた。でも、いざ、「そのとき」がくると、行動ができない、思っていることを行動にうつすのが難しいんだな、と思いました。その行動ができた私の友達は、本当にすごいなあ、と尊敬しました。何人も大人など、人がたくさんいたのに、おじいさんを助けたのは、私の友達だけだったからです。

この日、私は自分を知ることができました。私には、周りをよく見えない、行動にうつすことができない、という欠点があるということが分かりました。この二つの欠点をなくすために、視野を広げる、勇気を出して、まずは動いてみる、という二つのことを生活の中で意識してきたいです。そして、友達みたいに人に感謝される人になろうと思います。



● 審査員の紹介（敬称略・順不同）

岩瀬 寿夫（大泉町社会福祉協議会長）
前田 修（大泉町教育委員会事務局教育部教育指導課長）
竹田 淳一（大泉町内小学校校長代表 北小学校校長）
岩上 秀明（大泉町内中学校校長代表 南中学校校長）
須永 俊彦（大泉保育福祉専門学校校長）
酒井 清（大泉町健康福祉部福祉課長）
鏡 澄夫（群馬県立大泉高等学校国語担当教諭）
藤井 絵美（群馬県立西邑楽高等学校国語担当教諭）
鈴木 康弘（群馬県立西邑楽高等学校美術担当教諭）

第16回（令和4年度）

大泉町小中学生ふくし作文・ポスターコンクール入賞作品集

発行日 令和4年11月

発行 社会福祉法人 大泉町社会福祉協議会
〒370-0523 邑楽郡大泉町吉田 2465 番地
電話 0276-63-2294

《小学生高学年 ポスターの部》



優良
「盲導犬との絆」

大泉町立東小学校
うごう ゆすな
5年 宇口 結絆 さん

《中学生 ポスターの部》



優良
「届け!思いやりの羽」

大泉町立南中学校
ふくい もか
3年 福井 萌楓 さん

